

## THE ROTARY CLUB OF KARIYA



Weekly



2017～2018年度 国際ロータリー イアン H.S. ライズリー 会長テーマ

ROTARY : MAKING A DIFFERENCE ロータリー : 変化をもたらす

創立 1954年 3月 8日

承認 1954年 3月 30日

例会日時 毎週月曜日  
12:30～13:30  
例会場 刈谷市新栄町3の26  
刈谷商工会議所内  
事務所 TEL <0566>22-2111  
FAX <0566>25-2111  
メール kariyarc@katch.ne.jp  
ホームページ http://www.kariya-rotary.com  
会長 吉原孝彦  
幹事 出口達也  
会報委員長 佐野彰彦

この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。

## 第2986回例会プログラム

[当年度=12回目；当月=3週目]

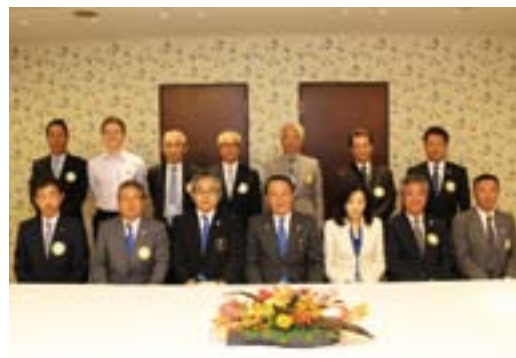
2017年（平成29年）10月16日(月)

## 神野重行ガバナー公式訪問

刈谷・知立 RC 合同例会……

〈司会：刈谷 RC プログラム委員長 丹羽 克誌〉

- 12:28 1. ガバナー入場
- 12:30 2. 点鐘  
3. 開会宣言  
4. 「君が代」「奉仕の理想」斉唱  
5. 歓迎の辞・ゲスト紹介及び会長挨拶※  
6. 食事  
7. 出席報告  
8. ニコニコボックス報告
- 12:55 9. ガバナー紹介
- 13:00 10. ガバナー卓話  
11. 謝辞  
12. 点鐘  
13. 閉会宣言
- 13:30 散会



会長・幹事懇談会

## ビ ジ タ ー

西三河分区ガバナー補佐 おおたか としのぶ 大高 敏陸 様

## ゲ ス ト

RI 第2760地区ガバナー かみの しげゆき 神野 重行 様  
RI 第2760地区幹事 かとう さだのぶ 加藤 定伸 様  
RI 第2760地区スタッフ はやかわ としえ 早川 敏江 様

青少年交換学生 ローウェン・ジェームス・マコール・ステファンソン君

## 出 席

会員総数 94名 出席免除 24名  
出席義務者+免除者の内例会出席者 85名  
欠席 9名 出席率 89.41%  
前々回（9/25）の修正出席率 100%

## 歓迎の辞及び会長あいさつ

### 明日は世界食糧デー

吉原 孝彦 会長



神野ガバナー、加藤地区幹事のご来訪を心より歓迎いたします。また昨日までの「ワールドフード+ふれ愛フェスタ」は成功裏に

終わり、おめでとございました。本日は大変お疲れのところ、例会前からご指導いただきました。

明日は世界食糧デーです。世界食糧農業機関（FAO）、世界の一人一人が協力し合い、最も重要な基本的人権である「すべての人に食料を」を現実のものとし、世界に広がる栄養不足、飢餓、極度の貧困を解決していくことを目的とする国際連合の専門機関の創立記念日です。

今、世界の飢餓人口は7億9500万人。9人に1人が飢餓に苦しんでいて、1日に4～5万人の人が亡くなっていてそのうち7割が子供たちです。私たちのように食べるものがいつでも十分に手に入るのは、世界のおよそ2割の人だけだそうです。

世界では年間25億トンの穀物が生産されていて世界の73億人が平等に分配するのなら一人当たり年間340kgも食べられます。年間標準量は180kgで、日本人は159kgしか食べていません。ではなぜ飢餓が起きるのか。

穀物は人間だけでなく、先進国は家畜のえさにも穀物の6割ほどを使っているため、結果として世界の2割の先進国が世界の半分以上を消費しているのです。

日本での食品廃棄量は、食糧消費全体の3割1800万トンです。このうち、売れ残りや期限を超えた食品、食べ残しなど本来食べられたはずのいわゆる「食品ロス」は約632万トンとされ、世界全体の食糧援助量約320万トンを大幅に上回ります。

日本ではそう言いながら児童の貧困率の上昇から食事のできない子供たちが増えてきたため、無料で食事を配る「子供食堂」が全国に広がってきました。まるで世界と同じ縮図です。名古屋市でもフードドライブと言って家庭からの余っている食物を集めてセカンドハーベストというフードバンクに寄付し、養護施設の子供や路上生活者の元に食料を届ける運動をしています。

またオーストラリアでは「すべて無料のスーパー」が出来ました。スーパーと言いながら、賞味期限切れ前でも処分されてしまう食品を大手スーパーから譲り受け、値札なし・レジなしのスーパーだそうです。

飽食の時代と言われて久しいのですが、もう一度「もっ

たいたい」の精神を思い出すべきですね。

今年のWFFではきっと売れ残り無し、食べ残り無しの食品ロスゼロで終わったと確信しています。

## 卓 話

RI 第2760地区ガバナー

神野 重行 様



本年度、2760地区のガバナーを仰せつかっております、神野重行でございます。どうぞよろしく願い申し上げます。

本日は、刈谷RCホストで、知立RC、合同の例会を作ってくださいありがとうございました。

昨日まで開催の第5回WFFは、14日は幸いにも雨に降られなかったのですが15日は一日中雨の中の開催でした。多数の参加をいただきありがとうございました。来年以降も開催の予定ですので引き続きご協力をお願い申し上げます。

さて、主にスライドでお話を進めさせていただきますので、私の方を見るのではなくスクリーンを見ていただきたいと思います。後方のスクリーンだと注目されて緊張してしまいますので。

今年の7月号のロータリーの友を皆さんにお渡ししておりますが、ご覧いただいた方はお分かりかと思えます。実は7月号のロータリーの友には、私も含めて日本の同期ガバナー34名の紹介文が載っております。その内容を見て昨年6月末までロータリーの友の編集長をされました二神典子さんが「紳士は白くま？牛？」とタイトルを付けてくださいました。普通、ガバナーの紹介のタイトルですので、もうちょっと良いタイトルが無かったのかなぁと思っております。また一度、ご覧いただければと思います。

先ほど話がありましたように、会長幹事懇談会は和やかで大変、意義のある時間でした。それぞれのクラブの状況につきましてはすでにクラブ訪問をしていただいております、ガバナー補佐大高敏睦さんからも報告をいただいております。刈谷クラブは当地区8番目に開設されたクラブで、その三男にあたるのが、知立クラブと聞いております。各クラブとも独自のクラブ活動で、特に、このエリアの皆様は地道にロータリー活動、地区に根ざした奉仕活動を積み上げていただいております。皆様方はもうお読みいただいております「事業計画書」こちらにも、本年度の会長方針、自分たちのクラブの方向性、取り組む姿勢がしっかりかかれています。私も拝見いたしました。この取り組みに感謝を申し上げる

次第でございます。

本年度国際ロータリー会長イアン・ライズリーのRI会長テーマを要約しますと、ロータリーは「自らの職業の倫理性を高め、それを通して“世界でよいことをしよう”」という理念を変えることはありませんが、その行動は時代とともに変化させてきています。今、この時代だからこそ、我々ロータリーは目的と理念を大切に守りつつ、“世の中で良いことをしよう”という自分たちの奉仕活動を周りの方々に伝播していくことが求められています。それには、まず、私どもが行動することによって、ロータリー活動の意義と楽しさを感じなくてはけません。それによって、私どもは自らを変え、そして周りを変えていくことができるでしょう。その力がもらえるでしょう。ということです。イアン・ライズリー会長は“世の中で良いことをしよう”という、それを“自分の努め”と信じる人が集まる団体、地域社会と世界に変化を生み出したいという願いを、ロータリーを通じで実現できる、そういうことを自分でわかった人が集まった組織。それが、ロータリー。だから、ロータリーは「どんな団体ですか」というのではなく、「何をしている団体か」と定義されたいと、言っております。すなわち、「奉仕という行動を通じて、自分自身も含めて人々の人生に変化をもたらそう。」これがイアン・ライズリー会長のメッセージでございます。

続いて、イアン・ライズリー会長のテーマに対する私の思いとそれをうけて、本年度、皆様と一緒にやっていきたい地域に対する思い、そして地区方針について簡単にお話ししていきたいと思っております。今年、1月のサンディエゴでの国際協議会でテーマ講演を聴きました。その時、イアン・ライズリー会長エレクトは大変革の時代のRI会長、我々のリーダーにふさわしい人だと思いました。

その理由は

1. ロータリーとして初めて地球環境問題に対しての行動を提案したこと。
2. 我々の行動によって周りを変えていこうという考え方をハッキリ打ち出したこと。
3. ロータリーの未来に向けての課題、問題点を明快に指摘したこと。

であります。

第1の地球環境問題についてですが、今までも議論されてきましたが、ただ、これに対する具体的な取り組みについての提案は、イアン・ライズリー会長が初めてです。未来に向けて、我々が地球上に住む人類のみならず、すべての生物にとって、分け隔てなくできる一番の“良いこと”これをイアン・ライズリー会長は「是非みんなで協力しよう」と言いました。各クラブにはすでに、来

年のアースデーに向けての取り組みをされているようです。これにつきましても御礼申し上げ、是非実現していただきたいと思っています。

2番目ですが、これはロータリーの原点とも言われる職業奉仕。これを再認識というように考えることもできると思います。すなわちロータリアンは、自分たちが、自分たちの職業、持ち場を通して世界に“良いことをしよう”と、奉仕活動を示したわけですから。それ以上に我々の周りの方々に、ロータリーの活動を認識してもらい、共感してもらえれば、良いことの幅も奥行きももっと広く深くなる。これは、私たち自身がロータリーの奉仕活動を通じて、自らの喜びを大きく感じる事が前提ですが。

3番目は、今までもずっと言い続けてきたことです。イアン・ライズリー会長はロータリーの未来を見据えて課題として出した問題提起であります。これからのロータリーを担っていくメンバーに、それぞれの立場で真剣に考えて欲しい。そういったことで私も評価した次第です。

イアン・ライズリー会長はロータリーの組織としての課題として二つの問題点を述べました。

1. 会員の男女比率
2. 会員の平均年齢

これは10年後も20年後も当地区が輝き続けることが可能であるとしました。会長エレクト研修会、あるいは地区研修協議会でもお話ししましたが、各クラブが10年後、20年後輝き続けることが、地区の輝きの大前提であります。昨年、RIの規定審議会で大幅にクラブの裁量権が拡大をいたしました。刈谷クラブでは今年度から、中長期計画委員会をお作りいただき感謝します。自分たちのクラブの分析、奉仕活動の点検などに取りかかっていたくようお願いしました。もうすでにその体制ができ着々と進めておられることに対して感謝申し上げます。

一つ目の男女比率の問題です。私は、ロータリーがアメリカで生まれ、育った奉仕団体でありながら、1989年まで男性だけの組織・団体であったわけでありまして。まだ30年に満たないわけですが、そのうちで世の中と同じ男女比率、50-50というのは、まだ無理ではないかと思っています。ただ、私はこれこそ、それぞれのクラブでしっかり議論しお決めいただく、クラブの自由裁量の問題と思っております。現在、我が地区・愛知の女性の会員は4.6%しかおられません。世界の会員の女性比率は21.5%と聞いております。日本を見ても、大都市圏で13.5%、全国平均で6.2%、それからすると、愛知の4.6%はちょっと低いかな、ずいぶん低いなと感じます。刈谷クラブでは女性会員はいますが、知立クラブではまだ女性会員ご縁がないようですが、奉仕活動も女

性のために活動することが多くなっているのです、ぜひいい縁を作っていただきたいと思います。活動を行っていく上では議論はいろいろありますが、今ロータリーは、世の中で良いことをしたいという意欲のある方、そして社会で良い評価を受けておられる方は男女の区別なしに我々の仲間を受け入れることができる団体になっております。

もう一つの課題。平均年齢であります。これは世界で40歳未満の会員が5%を下回るという、大変難しい課題かと思えます。我が国の少子化がすぐこのようなことまで影響しているとは思いませんが、それでも特にこれからのロータリーを考えると真剣に考えなければならない課題だと思っています。日本では90%のクラブが毎週昼に例会をしています。また、それも平日に集中して。さらに、高い入会金や会費、このようなことを含め、クラブの自主性が許されるようになった今、そして、これから思い切って例会の持ち方を見直し、変更することも必要になってくるのではないかと思っています。

我が国に限らず、先進国に数多くのボランティア団体が生まれ、奉仕活動を行っています。その中で112年の長い歴史を誇ります我がロータリーが一番の高い評価を得ていると思います。ただそうは言いますが、地区、地域からまだまだ認知をしていただくところまで行っておりませんし、活動内容の理解につきましても、「イマイチ」と、言わざるを得ないのが現実であります。私はガバナーとして、就任いたしました、愛知県知事、名古屋市長に就任挨拶をいたしました、それだけではなく、テレビ、ラジオ、新聞社のマスコミのトップの皆様にご挨拶をし、我々の奉仕活動の説明、あるいは、それに対する理解をしていただけるように、さらに、マスコミの皆様にも我々の活動取材して、世の中にもっと広めていただけるように公共イメージ向上委員会の皆さんと一緒に回らせていただきました。そのいくつかは、新聞紙上やテレビニュースなどでも取り上げていただきました。5年後10年後の姿を描いてみて、それに向けてクラブ内や中長期計画委員会で具体的方策を検討・実行していただきたいということが私のお願いするところでもあります。来月の地区大会で大村愛知県知事と一緒に壇上で防災協定を結ばせていただく準備をしています。

地区方針は、皆様ご存じのように「今日からのロータリーを楽しもう！」であります。地区ビジョン、それは、10年後20年後もこの地区、地域が輝き続けていること、そのために各クラブが輝き続けてもらいたい。ということです。行動指針は、クラブ計画書の中にしっかり載せていただいております。

行動指針：(昨日までと違うロータリーを楽しむための実戦項目)

1. クラブ中期計画策定のためのクラブ戦略委員会の設置
2. クラブと地区の行事への積極的参加
3. 周りへの積極的働きかけ
4. ロータリーファミリーとの活動連携強化
5. 会員増強

今年度各ガバナー補佐に各クラブ4回の訪問をお願いしました。しかし猛反発をいただきました。本人だけでなく、分区スタッフで協力して達成していただきたいという事でご理解いただきました。

会員増強は、言われてやるのではなく、自分たちのクラブの奉仕活動をより有意義にするための問題であります。会員増強委員会だけに任せるのではなく、クラブ全員が力を合わせて取り組んでももらいたいと思います。目標3%を刈谷クラブでは達成していますが、これを維持していただきガバナー賞を目指していただきたいと思えます。

ガバナー賞は会員増強と米山記念奨学事業であります。

寄付についてですが、自分たちの組織に寄付するのはおかしくないと考えていました、これは今や自分たちの活動資金、3年先にさまざまな補助金として自分たちに戻ってくる活動資金となる積立金なのです。寄付は貢献という形で皆様方にご協力をお願いしたいと思います。

最後に「マイロータリー」。これにつきましては、すでに登録を進めていますが、それははいやいややってもしょうが無い。「なんで入るんだ」ということが理解できないといけません。会員一人一人がもっと広いネットワークを持って、情報を共有して、他の仲間のことを知ると同時に自分のことも知ってもらえるということです。マイロータリーを活用していただきたいと思えます。

来年6月にカナダのトロントで国際大会が開かれます。ガバナーナイトは6月24日です。トロントでも皆様とお目にかかりたいと思えます。

今日からのロータリーを、是非、私と一緒に楽しませてもらいたいと思えます。

皆様方のご健勝と各クラブのますますのご発展をお祈りして、私の卓話とさせていただきます。ありがとうございました。